

あす 未来への学び

～分かる授業・楽しい授業を目指して～

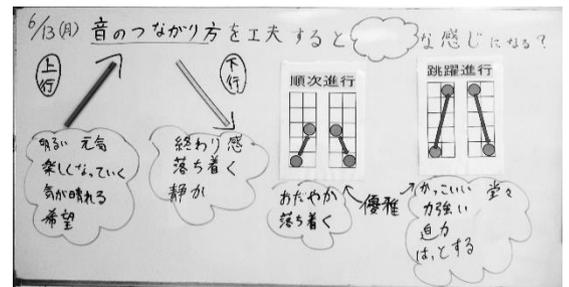
No.2 2022.6.24 (金)

思いや考えを表現する力を高めるには

～音のつながり方を工夫しよう～(中学校1年 音楽科)

6月13日、音のつながり方を工夫して旋律づくりをしました。旋律をつくる、すなわち作曲です！「作曲」と聞くと難しそうなイメージがあるかもしれませんが、実はそんなに難しいことはありません。とりあえず伴奏の和音(コード)さえ決まっていれば、和音に入っている音から音を選ぶだけで、それらしい旋律を作ることができます。例えば、ドとミとソの音を鳴らす和音が伴奏のとき、その和音に合う旋律を作るなら、ド・ミ・ソのいずれかの音を選んで並べればいいのです。前回の授業で、中学1年生の皆さんも、自分で作ったリズムに、あらかじめ決められた伴奏の和音の中に入っている音を当てはめることで、20分もせずに旋律を作り上げていました。でも、せっかくなら、思いをもって工夫して、よりお気に入りの旋律にしよう・・・ということで、今回は、音のつながり方によって曲想はどう変わるかを考えながら、前回作った曲を完成させる活動をしました。

ところで、ここでいう「音のつながり方」とは、『だんだん音が高くなる(上行)』『だんだん音が低くなる(下行)』『近くの音に順番に音が動く(順次進行)』『音が遠くの音に飛び(跳躍進行)』を指します。全員で、これらがかもしだすイメージを考えました。例えば、上行は「楽しくなる」「盛り上がる」、下行は「落ち着く」「静か」というように真逆のイメージになるという意見が多かったです。順次進行と跳躍進行は、童謡「ゆうやけこやけ」について、芸人の狩野英孝さんがバラエティ番組で《クセが強い》歌い方をしたものを聴き、それが跳躍進行を使っているから雰囲気が変わっていること、順次進行と曲想が変わってくることを感じ取ることができました。それを受けて、早速、自分の作った旋律を工夫！



- ・全体的に上っていくようなメロディーにしました。理由は、下るより、上がる方が、元気な感じがして気分も上がるからです。
- ・音のつながり方を順次進行にしておだやかにし、最後を下げて落ち着くようにしました。
- ・跳躍進行がないせいか、落ち着いている感じになった。
- ・最初のほうを、飛びはねるような感じでつくりました。(この生徒は、跳躍進行を多く使っていました)

思いついたままに音を並べるだけでも、作曲はできます。しかし、音楽は、自分が伝えたいことを表現する手段のひとつ。今回のように「〇〇を伝えたいから、●●しよう」ということを考えながら、今後も音楽の活動ができるといいですね。ただし、それは、気をつければすぐに出来るようになることではありません。音楽に限らず、あらゆる活動で自分の思いや考えを持ち、それを他の人に伝える経験を積み重ねて、伸びる力です。ぜひ、「〇〇を伝えたい！そのために●●をしたい！」をたくさん経験してくださいね。

(中学校音楽担当・)